

当園は、
子どもと自然のより良いかわりをめざす、
ネイチャーゲームモデル園です。

幼児としぜん



ネイチャーゲームリーダーがいる園として 子どもを育てる

あらまき た え こ
荒巻 太枝子

早出幼稚園園長
浜松市環境教育推進ネットワーク運営委員会副委員長



ネイチャーゲームとは

ネイチャーゲームは、1979年にアメリカのナチュラリスト、ジョセフ・コーネルによって発表された活動です。「見る」「聞く」「触る」「嗅ぐ」など私たち一人ひとりが持っている感覚を使って自然を直接体験し、四季折々に子どもと大人と一緒に自然とふれあうことができます。

命と出会う豊かな体験を子ども時代に！

「見てみて」「すごいね」「わあ、きれい」…落ち葉一枚、どんぐり一つ、どんな小さな自然でも子どもたちの心を揺さぶります。自然の美しさやおもしろさ、不思議さに出会った時、子どもたちの瞳はキラキラと輝きます。

命に満ちた自然の中から得た子どもたちの感動をそのまま受け入れ、うなずいてくれる先生がネイチャーゲームリーダー資格をもった保育者です。そんな先生の笑顔に見守られて、子どもたちは、さらに自然への扉を開いていきます。

人とかかわる楽しさ、互いに信頼する心を育む

ネイチャーゲームは、自然とかかわるための活動ですが、人と人とかかわりも大切にします。「友だちの感じたことを受け入れよう」「友だちに素敵な自然を紹介してあげよう」「みんなで協力して考えよう、やってみよう」そんな要素にあふれた活動がたくさんあります。

子どもたちは、自然を通して活動を楽しみながら、人に対する思いやりの気持ちを身に付け、協同することの面白さを学んでいきます。そのことは、自分たちが生きている世界への信頼感へとつながっていきます。

「なんだろう」「面白いな」という気持ちを育てる

小学校以降の学びの基礎として必要なことは、「自ら学ぶ意欲」を持つこと。自然の中にあるたくさんの不思議は、子どもたちの「知りたい」気持ちを大いに刺激します。

楽しさは学ぶ力。ダンゴムシはどうして丸くなるの、セミはなぜ夏だけいるの、寒いとなぜ氷がはるの…子どもたちの「なぜ?」は無限にありますね。それも多様性に満ちた自然の中だからこそ。私たち大人も子どもたちと一緒に「なぜ?」を楽しみましょう。



幼児期の教育における自然体験

つがね み ち こ
津金 美智子

文部科学省初等中等教育局視学官
(併任) 幼児教育課教科調査官
国立教育政策研究所教育課程調査官



幼児期は、自分の興味や関心に基づいた直接的・具体的な体験を通して、人格形成の基礎となる豊かな心情、物事に自分からかかわろうとする意欲、健全な生活を営むために必要な態度などを培う時期です。

幼児は、身体感覚を伴う多様な活動を経験することによって豊かな感性を養うとともに、生涯にわたる学習意欲や学習態度の基礎となる好奇心や探究心を培っていきます。それは、小学校以降における教科の内容等について実感を伴って深く理解することにつながる「学習の芽生え」を育んでいます。

そのため幼児期の教育においては、幼児が周囲に存在するあらゆる環境からの刺激を受け止め、自分から興味や関心をもって環境にかかわることで様々な活動を展開し、充実感や満足感を味わう体験、つまり幼児の自発的に取り組む遊びを重視しなければなりません。

その中で、幼児にとって自然に触れる体験は大きな意味があります。幼児は、自然に触れて遊ぶ中で、全身で自然を感じ取り、不思議さに心動かしたり、発見を楽しんだり、試行錯誤を繰り返したりし、生活に取り入れようとします。

様々な自然とのかかわりの中での感動を先生や友だちと伝え合い、共感し合ったり、共通の目的をもって取り組んだりして、共に生活しようとする楽しさを感じたりします。

自然体験が幼児にとって意味あるものとなるには、教師が園庭の環境や地域等の園外の環境の活用等も含め広い視野から見直し、幼児と共によりよい教育環境を創造するように努めなければなりません。

また、幼児が発達に必要な体験を積み重ねていけるよう、発達の道筋を見通して教育的に価値のある環境を計画的に構成し、教師の深い幼児理解に基づいた援助が必要です。

幼児が今、どのような思いで自然環境にかかわっているのか、自然のどこに面白さや不思議さを感じているのか、その気づきをどのように遊びに取り入れようとしているのか、試したり工夫したりするのに何を必要としているのかなど、幼児の行動を理解し予想しながら意図をもって教育を行う必要があります。その一つの方法として「ネイチャーゲーム」の活用が考えられるでしょう。

幼稚園は家庭や地域と密接な連携を図り、発達や学びの連続性を見通して小学校教育との円滑な接続に配慮し、幼児の自然との関わりを広げていきたいものです。

幼児教育の基本

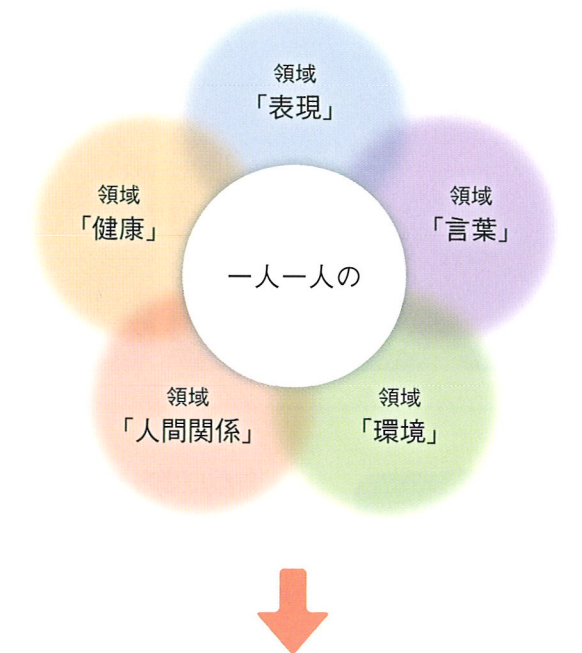
「環境を通して行う教育」を基本とする

* 環境とは物的な環境だけでなく、教師や他の幼児も含めた幼児の周りの環境すべて

- 幼児期にふさわしい生活の展開
- 遊びを通しての総合的な指導
「遊び」は、幼児にとって重要な「学習」
- 一人一人の発達の特性に応じること

幼児の育ちと5領域

(イメージ図)



生きる力の基礎を育成



公益社団法人
日本シェアリングネイチャー協会

ネイチャーゲームの普及を軸としながら、広く自然とのかかわり方を伝える全国組織です。アメリカのナチュラリスト、ジョセフ・コーネルとの間にシェアリングネイチャープログラムの普及ライセンスを結び、全国にある都道府県シェアリングネイチャー協会および加盟団体と連携を図りながら日本での普及を行っている公益社団法人です。

ネイチャーゲームモデル園 について

公益社団法人日本シェアリングネイチャー協会では、より充実した自然体験を提供できる保育者がいる園として、「ネイチャーゲームモデル園」を認定しています。園でのネイチャーゲームをはじめとする自然体験活動を支援するとともに、保護者の皆様や地域の方々のご理解、ご協力をいただき自然の面白さや楽しさを通して、子どもたちのより良い育ちを応援します。

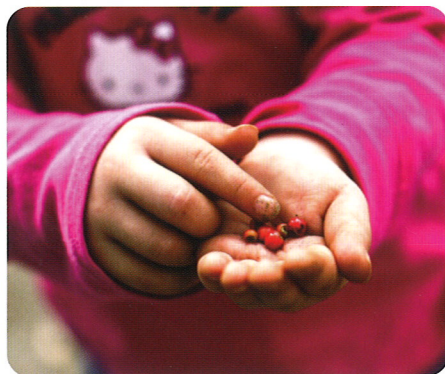
2015年度 ネイチャーゲームモデル園

認定こども園めぐたま … 山形県

ねむの木保育園 … 東京都

早出幼稚園 … 静岡県

神理幼稚園 … 福岡県



SharingNature®

自然に寄りそう 未来につなぐ

公益社団法人 日本シェアリングネイチャー協会

〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-13-17 ワークスナカノ2階

Tel.03-5363-6010 Fax.03-5363-6013

<http://www.naturegame.or.jp>

mizushina@naturegame.or.jp